

すこやかちゃん



ありっさ
有彩ちゃん(平成17年11月30日生)
両親＝小泉正幸・直子さん〔西足洗〕
「元気でむちむち! 男の子?って
よく聞かれるの。プンプンッ。」

みお
湊ちゃん(平成18年1月3日生)
両親＝穴澤真弘・真理さん〔二〕
「いたずら大好き! 次はどんないたずらしようかなあー!」

つよし
剛ちゃん(平成17年12月26日生)
両親＝宮内優・麻紀さん〔二〕
「お友達がたくさんできて
ハッピーなんだ! パパが大好き!」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室 ―旭モノ語り― 第二十回

石の手

昔々、まだ医業が十分でなかった時代、いやいや化学療法が普及した現在でさえも、人々はさまざまな形で病氣治癒や健康祈願のため、その思いを神社仏閣に託してきました。萬力の手接神社には次のような由来が伝わっています。

昔、萬力村の八角茂兵衛という者が手痛症にかかり、薬も効かずに困っていました。あるとき、常陸国東茨城郡橋村(現茨城県小美玉市)にある手接神社がよいと聞きつけ、そこへ参詣したところ、なんと三回で病氣が完治。喜んだ茂兵衛は感謝を込めて地元で石祠を建立しました。すると、近隣でこのことが話題を呼び、多くの人々が訪れるようになって、地区でも資金が集められ、明治二十四年に社殿を建てるまでになりました。現在の社殿は、平成十一年に建て替えられたものです。

境内の隅に、そのときの改修で発見されたという石で造られた手と足がにょきにょきと残されています。病氣にご利益のあつた参詣者がここに奉納していったものです。足もあるところから、足の病氣治癒も願ったのでしうか。手を合わせた立体的な形、実物よりも大きく立派な奉納石に、健康への願いと喜びが込め



られています。

茨城の手接神社には、領主に手を切り落とされたいとすらすら者のかつぱの伝説があります。不思議なことに、この本家の神社には石の手は見当たりません。

手や足、身体の一部をかたどった絵馬、石仏などは現在もよく見られますが、こうした石造りの手、足は全国でも例を見ません。地元では、「てつぎさま」と慕われているこの神社、珍しい民間信仰の足跡が刻まれています。

※参考文献「季刊・日本の石仏」No.119
〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

6日(火)	東総工業高校・旭中央病院附属看護専門学校卒業式
8日(木)	旭農業高校卒業式
9日(金)	海上中卒業式
14日(水)	二中・飯岡中・干潟中卒業式
15日(木)	一中卒業式
	市・県民税、所得税の申告受付締切
20日(火)	市内小学校卒業式(中央小・矢指小除く)
21日(水)	春分の日
22日(木)	中央小・矢指小卒業式

編集後記

今年の冬は例年より暖かく、このまま次の季節を迎えそうです。さて、市内には国指定をはじめとする文化財や、古くから伝わる行事があります。今月紹介している水神社の神楽も、県指定無形民俗文化財の一つです。同じく文化財「飯岡の辛念仏」が後継者不足で継承できずに消滅、県の指定を解除されることになりました。地域の人たちが永く伝えてきたことで、今も見ることもできる行事は少なくありません。伝えることの大切さを改めて感じます。(S)